

(3) 温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用法

ア 一般的な注意

イ 自然くん煙

(ア) 使用法

(イ) 各自然くん煙剤

ウ 常温煙霧

(ア) 散布法

(イ) 各常温煙霧剤

(ウ) 注意事項

ア 一般的な注意

- ハウスの戸や窓を密閉し、室の容積に応じて薬剤の使用量を決める。事前に必ず説明書を読む。
- 一般に風のない夕刻に行い、翌朝開放する。風の強い日、室温が30℃以上の時や、もやのかかった場合は避ける。また、幼苗期や定植直後は葉害が出やすいので避ける。
- ハウス内が乾燥している場合、葉害がでやすいので、かん水後に行う。
- くん煙中はハウス内に入らない。入室が必要な場合は、必ず専用の防毒マスクを使用する。
かぶれやすい体質の人は絶対に入らない。
- 作業の都合でハウスを開けたり天窓を開放する必要がある場合は、くん煙後最低2時間経ってからとする。

イ 自然くん煙

(ア) 使用法

室内容積、面積に応じた薬剤を均等に通路上に配置する。くん煙剤のまわりの可燃物をあらかじめ取り除き、マッチで点火する(薬剤は手に持たない)。夕方くん煙して密閉し、翌朝換気する。葉やけを生ずることがあるので、作物の上方につるとよい。

(イ) 各自然くん煙剤

a 殺菌剤

薬剤名の後の()はFRACによる作用機構分類コードを示す。

- ・ [硫黄粒剤](#) (M2)
- ・ [スミレックスくん煙顆粒](#) (2)
- ・ [ダコニールジェット](#) (M5)
- ・ [トリフミンジェット](#) (3)
- ・ [パンチョTFジェット](#) (U6+3)
- ・ [フルピカくん煙剤](#) (9)
- ・ [モレストン水和剤](#) (M10)
- ・ [ロブラールくん煙剤](#) (2)

b 殺虫剤

系統名の後の()はIRACによる作用機構分類コード(サブグループ)を示す。

- ・ 合成ピレスロイド系 (3A)
[テルスタージェット](#)
[マブリックジェット](#)
[ロディーくん煙顆粒](#)
- ・ ネオニコチノイド系 (4A)
[モスピランジェット](#)

ウ 常温煙霧

薬剤を微粒子で噴出させ送風機で施設内に送り込む方法である。

(ア) 散布法

- a 散布はできるだけ夕刻に行い、翌朝までそのまましておく。
- b ノズルの設置場所は、施設の形状に合わせて対流がスムーズに行くような位置とする。
 - ・長い施設の場合は、両端にノズルを設置する。
 - ・間口の狭い施設の場合は、短辺の中心より左右どちらかにすると到達距離が伸びる。
 - ・送風設備のある施設では、その風向と同じ方向に設置し、併用するのもよい。
- c ノズルは作物より上部の空間に設置し、噴霧方向はやや上向きとする。上部空間が少ない場合は畦間に設置する。なお、噴霧が直接作物に当たったり落下すると汚れることがあるので、上部空間の場合は作物上部に、畦間の場合は左右株際に、ビニールシートを噴霧方向に5mくらい張り、保護する。

(イ) 各常温煙霧剤

薬剤名の後の()はIRACまたはFRACによる作用機構分類コード(サブグループ)を示す。

(a) 殺菌剤

- ・[アグロケア水和剤](#) (BM2)
- ・[アフェットフロアブル](#) (7)
- ・[ショウチノスケフロアブル](#) (U13)
- ・[スミレックス水和剤](#) (2)
- ・[セイビアーフロアブル20](#) (12)
- ・[ダコニール1000](#) (M5)
- ・[トップジンM水和剤](#) (1)
- ・[フルピカフロアブル](#) (9)
- ・[ベンレート水和剤](#) (1)
- ・[ベルコートフロアブル](#) (M7)
- ・[ボトキラー水和剤](#) (BM2)
- ・[モレストン水和剤](#) (M10)
- ・[ロブラール水和剤](#) (2)
- ・[Zボルドー](#) (M1)

(b) 殺虫剤

- ・[アドマイヤー水和剤](#) (4A)
- ・[ウララDF](#) (29)
- ・[コテツフロアブル](#) (13)
- ・[コロマイト水和剤](#) (6)
- ・[セコンドDF](#) (29)
- ・[ダブルシューターSE](#) (5)
- ・[ファインセーブフロアブル/アベンジャーフロアブル/ファインスナイパー](#) (34)

(ウ) 注意事項

- ・ハウス内にもやが立つような多湿の場合は、拡散効果が劣るので避ける。
- ・作業中及び密閉中は室内に入らない。やむを得ず入る場合は、防護マスク、長袖作業衣、手袋などを着用する。